

[dōnk]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siège : Oden Building 21-4 Higashi-

Maruuchi Tsu JAPON ☎ 0592 (26) 3159

N° 008

le 1^{er} avril 1989

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

協会設立二周年 定例総会を4月22日に

県立美術館長 陰里鉄郎氏の記念講演

BICENTENAIRE / フランス革命200年記念事業N°1

三重日仏協会・1989年度定例総会を下記のように開催いたしますので、ぜひご出席のうえ貴重なご意見をお願いいたします。

総会に先立って、協会理事で県立美術館館長・陰里鉄郎氏の記念講演会を美術館と共催で（一般公開）おこなうことにしました。テーマは200周年に因んで、「フランス革命と絵画」。お誘い合わせて、ご来聴ください。また総会議事のあと、懇親パーティーを予定しています。

PROGRAMME

4月22日（土）

午後2時 記念講演会 於 県立美術館

「フランス革命と絵画」陰里鉄郎先生

☆丸二ホテル津（津駅西南3分）に場所を移動

午後3時45分 総会受付（会費納入、新会員登録など）

4時 総会（88年度事業・決算報告、89年度事業・予算案
役員選出）

4時30分 懇親パーティー（会費4,000円）

*同封のハガキで出欠を4月14日までにお知らせください。

会員のページ

本会会員で三重短期大学教授の内村瑠美子さんが、このほど大阪産業大学に転任されることになりました。内村さんはネルバルの研究のほか、広くフランス文化に造詣が深く、以前「サンデー毎日」に連載された『フランス語談話室』の著書は有名でした。三重を去られるにあたり、本紙に一文を頂戴しました。

内村 瑠美子

三重短期大学に職を得て十二年、こんど大阪に移ることになりました。大学の教師というのは、「包丁一本、さらしに巻いて…」店から店へ修業のために渡り歩く板前さんに似ているような気がします。大阪産業大学は学生数も多い大所帯らしいので、今までとは違う苦勞をすることになるかもしれません。

苦勞といえば、三重短大では、苦勞らしい苦勞はひとつもしないですみました。同僚はみな親切でしたし、学生のなかから良い友だちもなんにんも得ることができました。ただ、独り者は地域で人間関係の環がなかなか広がらない恨みがあります。私の消極的な姿勢もあったのでしょうか、三重で知り合いといえば同僚と

学生だけという有様が長年つづきました。

三重日仏協会が誕生したのは、だから、私にとっても嬉しいことでした。世界が広がりました。協会の皆さんから恩恵を受けるばかりで、貢献らしい貢献ができなかったことが悔やまれます。それなのに、まだ当分は会員のままでいたい、というのは凶々しいことかもしれませんが、ぜひそうさせていただきたい、と思います。せめて『ドンク』だけでも読みつづけたいものです。

とりあえず、ありがとう、さようなら、を申しあげますが、これからもどうぞよろしく。三重日仏協会のますますの発展と皆さまのご健康を祈っております。

H. セカルディ夫妻

Bienvenue!



東京お茶の水にある「日仏会館」フランス学長で、海洋学の権威であるユベール・J・セカルディ博士が、講演と視察をかねて去る2月7日、三重県を訪問されました。

三重日仏協会では同日夜、ご夫妻を歓迎する夕食会を催し、雲井副会長をはじめ15名の会員が参加してなごやかに歓談、日仏の交流を深めました。(写真)

これに先立ってセカルディ博士は三重大学で「海洋資源の地球的課題」というテーマで講演され、『海洋資源はだれのものなのか。高レベルの捕獲技術を持っている国に属するのか、魚を食べる習慣のある国のものか、食糧危機に直面しているところに権利があるのか。明確な答えは出せないが、これは問い掛けなければならない問題である』(中日新聞より)などと指摘、現代における海洋資源の保護と活用について深い考察を示されました。

ドゥーセ夫人が帰仏

フランス家庭料理講座の講師として親しまれていたドゥーセ夫人は、去る一月マガリちゃんほか4人のお子さんとともにフランスへ帰国されました。ご主人のドミニクさんは、引き続き鈴鹿サーキットのパン屋さん『グランプリ』でがんばっておられます。お一人で淋しいそうですので、会員の皆様声をかけてあげてください。

ジェットロと共催で

ヴァレリー氏経済講演会

ジェットロ三重貿易情報センター主催、三重日仏協会共催による経済講演会が、3月9日津都ホテルで開かれ、県内の商工業者や日仏協会会員ら約30名が参加しました。

講師は、フランス産業開発局(DATAR)大阪代表フィリップ・ヴァレリー氏で、フランスの経済の動向や立地条件について説明、三重県の企業がフランスに積極的に貿易や工場進出するよう訴えていました。

講演のあと、ヴァレリー氏(独身、ボーギャルソン!)と日仏協会メンバーとの懇談の機会がもたれました。

好評裡に終了 仏語入門講座

受講生から入会者も

今回の「フランス語入門講座」には16名が参加、毎回ほとんど欠席もなく、熱心に受講していました。

講師は、内村、川那部、武田の三会員にお願いしましたが、内村（三重短大教授）、川那部（三重大助教授）両先生は、この四月、それぞれ大阪と筑波に転任されるということで、こちらでは最後の授業になりました。また最終回には鈴鹿のドミニク・ドゥーセさんもゲストとして加わっていただき、喜ばれました。

終了後、受講生にアンケートをお願いしましたが（13名回収）、それによりますと……

＜この講座を何で知ったか＞は、「新聞で」が圧倒的に多く10名。

＜講座の内容について＞は、「よかった」7名、「まあよかった」5名と好評。要望としては、「もっと時間をかけてほしい」、「基礎的文法も教えてほしい」、「個々の単語についても詳しく知りたい」などでした。

なお受講者のうち、4人が日仏協会にすぐ入会したいと答えました。

委員会だより

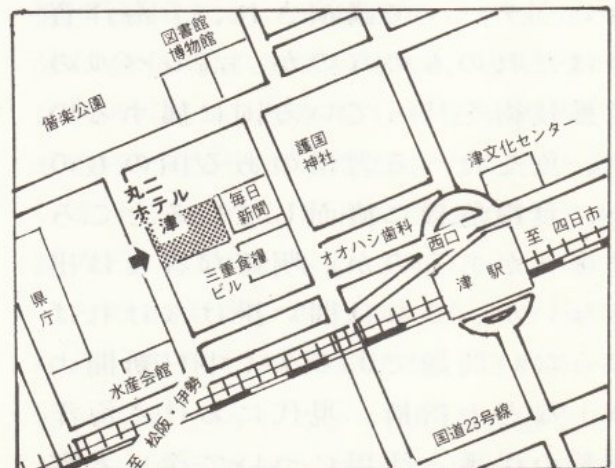
仏文ガイド委員会

協会設立当初より三重県観光国際課発行の英文ガイド「MIE」の仏訳を会員有志で行ってきましたが、2月に最終的なワープロの打ち込みを終え、現在再度の校正（添削）をリエゾン・フランス・ジャポン校講師ボジュナ・キム女史に依頼してあります。4月には完成の予定です。1年間で完成の予定が2年かかってしまいました。

翻訳に係わった会員は18名。50ページ程度の冊子になる予定です。

今後この仏訳を県に進呈し、仏文ガイドの印刷、発行を働きかけていく予定ですが、三重日仏協会としてもできれば独自にある程度の印刷、製本を行い、ご希望の皆様にお分けしたいと考えています。

但し、今のところ印刷製本等にかかる費用のめどは全くたっていません。実現の為に何か良いアイデアがありましたら運営委員 喜田（0592-26-8088）までご連絡ください。



総会と懇親会会場 丸二ホテル津